

令和2年度 地域経営カレッジ

自主財源確保研究グループ

久野地区振興会

福間 正人

八日市地域づくりの会

小林 勉

掛合自治振興会

白築 敏彦

1

H30年度 あり方報告

- 自主財源は無いに等しい地域が多く、会費に頼っている。
- 高齢者世帯が増加し、会費の増額は難しい。
- 交付金が減額された場合、職員の雇用や事業の継続が困難。
- 事業収入による安定的な多額の自主財源を獲得することは難しい。
- 自主財源の獲得につながるような資産や資源が見当たらない。

2

現 状

H19年度 市内全域で自主組織結成



H22年度 公民館から交流センター



H25年度 直接雇用方式



H27年度 基本協定書の締結



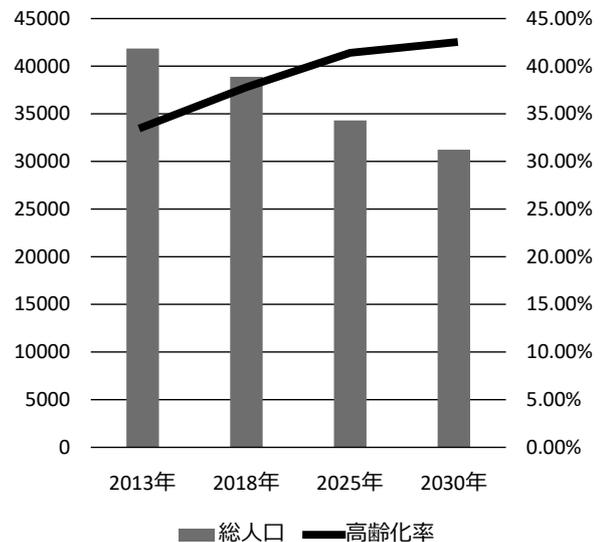
H30年度 地域と行政の今後のあり方



報告書完成

R2年度 自主財源確保研究

人口と高齢化率の推移



※交付金の算定方法には人口や高齢化率が影響する。
また、用途が制限されるため、地域で自由に活用できるお金がこれからは重要。

3

参加のきっかけ

- 職員の給与が安い。外から資金を稼ぐことができれば、地域で働いている人の給与に上乘せができ、担い手が確保できるのではないか。
- たくさんの人に地域を知ってもらい、交流センターを利用してもらいたい。
- 地元の困りごとを解決したい。困りごとの解決が、自主財源確保につながる。

4

自主財源とは何か？

- 組織が自主的に獲得できる財源のこと。
- 自主財源の比率が高くなるほど、組織の自主性や安定性を確保できるといわれている。

具体的にはどんなもの？

- ①会費、参加費
- ②指定管理料、受託事業（配食サービス、児童クラブなど）
- ③販売（地域の特産品、バザーなど）
- ④施設・設備の収入（使用料、太陽光発電売電料）
- ⑤寄附金・視察料 など

5

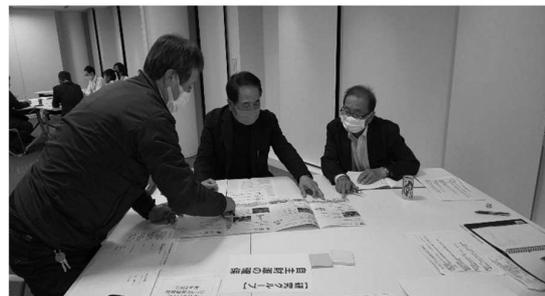
自主財源の必要性は？

💡自主財源が「ある」とき

- 人件費に充てれる。
- 会費の減額につながる。（高齢化・人口減少）
- 地域で自由に活用できる財源ができる。
- スタッフのやる気につながる。
- 儲かると事業を苦痛に感じない。楽しく活動できる。（有償ボランティア、ベースアップ、視察旅行など）
- 地域の担い手など、人材の確保が可能になり家族を養うだけの給与が払える。
- 自主財源確保の活動が、自主組織のPRになる。

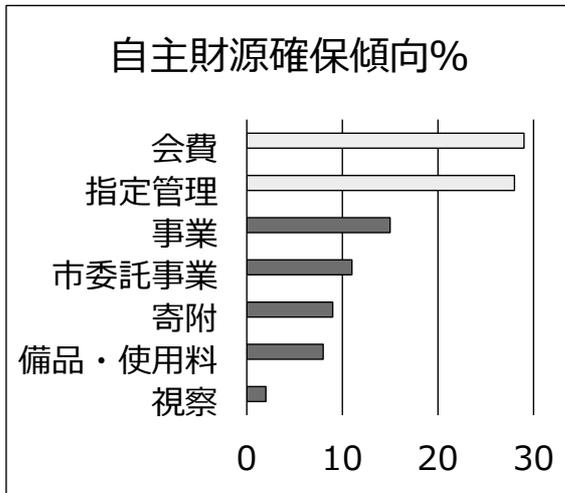
💡自主財源が「ない」とき

- 交付金があれば大丈夫。
- 勤務する人（担い手）もいなくなる。



6

回答傾向



主な財源は・・・

・ **会費** 平均2,305円

(組織の活動費以外に団体負担金も含まれる組織もある。)

・ **指定管理料**

事業収入は主に・・・

・ **既存の活動**

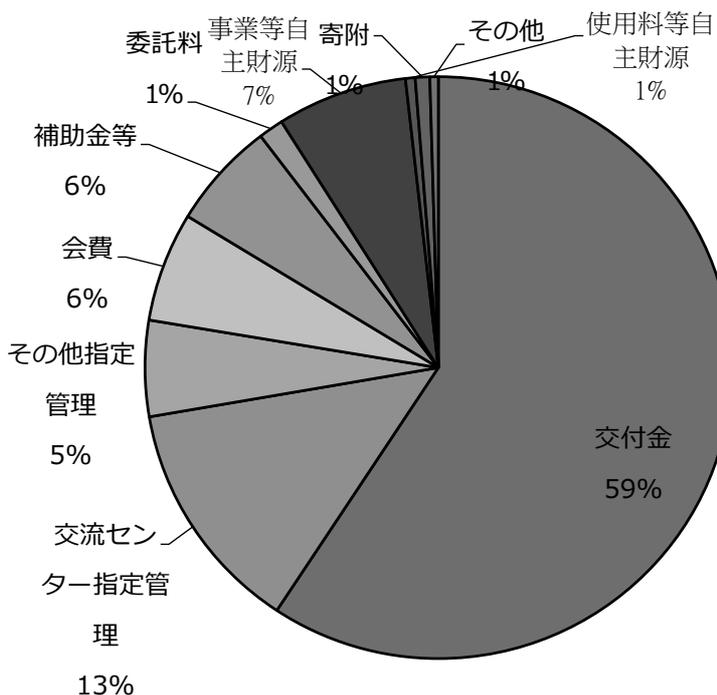
例) 販売、太陽光、参加費など

● **収入に係る自主財源の割合** 平均13.31%

(※組織ごとに自主財源のイメージが違い、1.5%～52.5%の幅があった)

9

R元年度 総会資料からの収入割合平均



1位 **交付金** 59%

2位 **指定管理** 18%

3位 **自主財源** 7%

4位 **会費、補助金等** 6%

※委託料や寄附は1%

※繰越金や繰入金は除く。(一般会計と指定管理会計、自主財源部分については一部特別会計も合算しています)

10

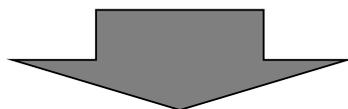
アンケートからの気づき

- 自主財源を確保している感覚が少なく、各組織の自主財源に対するイメージが違った。
- ボランティア活動が多く、自主組織が収益を得て良いのかという意識があり、事業での自主財源確保を実施する組織が少ない。
- 指定管理等での財源割合が多く、今後、行政サービスの申請代行など新たな財源になる可能性もある。
- 会費は重要な財源。しかし、高齢化や人口減少の影響で増額する場合は地域の理解を得ることが難しい。 自主財源確保により、会費負担が軽減できる可能性もある。

11

実態把握

- 市内外の地域の取組状況・事例を学びたい。
- 具体的に、自主財源確保事業の工夫などを聴きたい。



自主財源確保研修の開催

12

■自主財源確保研修①

研修：躍動と安らぎの里づくり鍋山

会長 秦美幸氏

日時：令和3年1月14日（木）

10時00分～11時30分

参加：研究Gメンバー



【取組】

・水道検診受託、安心生活応援隊、切手販売、ドリンク販売、備品貸出、事業参加負担金、視察料、地区計画等の販売など

・今後は、移動支援や新たな指定管理の受託を検討。

・福祉事業を中心とした事業展開の中で自主財源確保（いつまでも住み続けるために）。

・事業実施をとおして、地域との信頼関係を築き、困った時に自主組織に「助けて」と言えるような、頼られる組織への仕組みづくり。

・補助事業を活用し、地域での雇用を確保。地域で働き、地域内で経済を循環。（事業が増えれば、人材が必要となるが、地域内雇用することで、地域内で循環するお金が増える。）

13

■自主財源確保研修②

研修：筆甫地区振興連絡協議会

事務局長 吉澤 武志氏

日時：令和3年1月14日（木）

14時00分～15時00分

参加：研究Gメンバー（会場）

12組織16名希望者（オンライン）



【取組】

・広報誌の外部発送、へそ大根のブランド化、販売、ひっぽのお助け隊、ひっぽのお店ふでいち（店舗と移動販売）、ガソリンスタンド経営、太陽光発電（現在は組織とは別の株式会社となる）

・今後は、お酒造りや営農も。

・地域の重要度の高い課題を解決することで、生活の安心・安全につなげる事業を実施。自主財源確保することで、地域内の「ヒト・モノ・カネを生み出し続け、地域経済が循環する仕組みづくり。

・事業実施による、雇用確保や地域内での存在感上昇。組織の価値が高まり、若い人が働ける組織へ。

★録画URL★

<https://youtu.be/am0kj7rfqBI>

14

研修での気づき

- 組織が儲けるということではなく、地域にお金循環するという考え方。今ある事業に+αすることで、地域に回るお金が増える。
- 交付金や補助金を使い切る事が目的となっていて、ボランティアという意識が根付いている。きちんと収益をあげ、次にできることを考える事がやりがいに繋がる。
- 自主財源を、福祉事業への活用するなど明確な目的を持つことが大切。理解も得られやすい。
- 地域内での信頼関係から財源確保につながっている。地域内の意識改革も重要。
- なんでも財源になる。
- 財源確保の事業によっては、個人情報への対応が必要。
- クラウドファンディングなど外部資金の調達も財源確保の可能性はある。
- 地域にある資源（ヒト・モノ・カネ）を活用し地域内の循環をつくる。

15

自主財源確保のアイデア

- 墓掃除の代行
- 空き家の管理（換気や破損確認）
- 販売（たこ焼き、ピザ、蕎麦）
- 高齢者へ利便性の高いマーケット
- シルバー居酒屋（晩酌、惣菜などの支援）
- 耕作放棄地活用（蕎麦）
- メルカリ、フリマ
- サブスクでなにか・・・
- 高齢者サロン+α事業
- 宅配の受託（交流センターでの受取、梱包発送など）
- 余剰野菜販売、特産物販売
- 交流センター活用（設備、備品利用）
- 企業や大学との連携による研修会
- 観光名所と連携した販売
- 酒の販売
- 補助金事業の活用
- クラウドファンディング、寄附
- 見守り活動など今あるボランティアを有償化
- 行政等の手続きメニュー（申請代行）

16

自主財源確保のパターン

既存の事業 + α

外部資金

新規事業

補助事業
活用

イベント
出店

会 費

17

地域に応じた
方策の検討・提案

立木処理事業

◆目的

- 1.道沿いの安全確保
- 2.家庭の環境改善
- 3.自主財源の確保

◆事業内容

危険を及ぼす立木、家庭で不要な立木を伐採・搬出する

◆事業実施の方策

- 1.業者主催で振興会職員に対しチェーンソー講習会を実施、作業者とする。
- 2.振興会で業者の会員登録をし、材の搬出を可能とする。
- 3.地区内にチラシ等配布し、伐採または搬出の希望をとる。
- 4.振興会で作業を行い、対価を得る。

19

◆事業実施の経費と収益（収益の使い方）

収入	金額	備考
事業者対価（1トン）	6,000円	内訳（4,000円 里山券、2,000円 現金）
支出（全作業委託）		
作業賃金	5,000円	内訳（4,000円 里山券、1,000円 現金）
久野地区振興会	1,000円	必要経費（燃料費等）振興会事業費
支出（搬出以降の受託）		
持ち主への伐採費用	1,000円	里山券
作業賃金	4,000円	内訳（3,000円 里山券、1,000円 現金）
久野地区振興会	1,000円	必要経費（燃料費等）振興会事業費

※作業賃金；チェーンソー使用料、木材運送費含む

◆課題

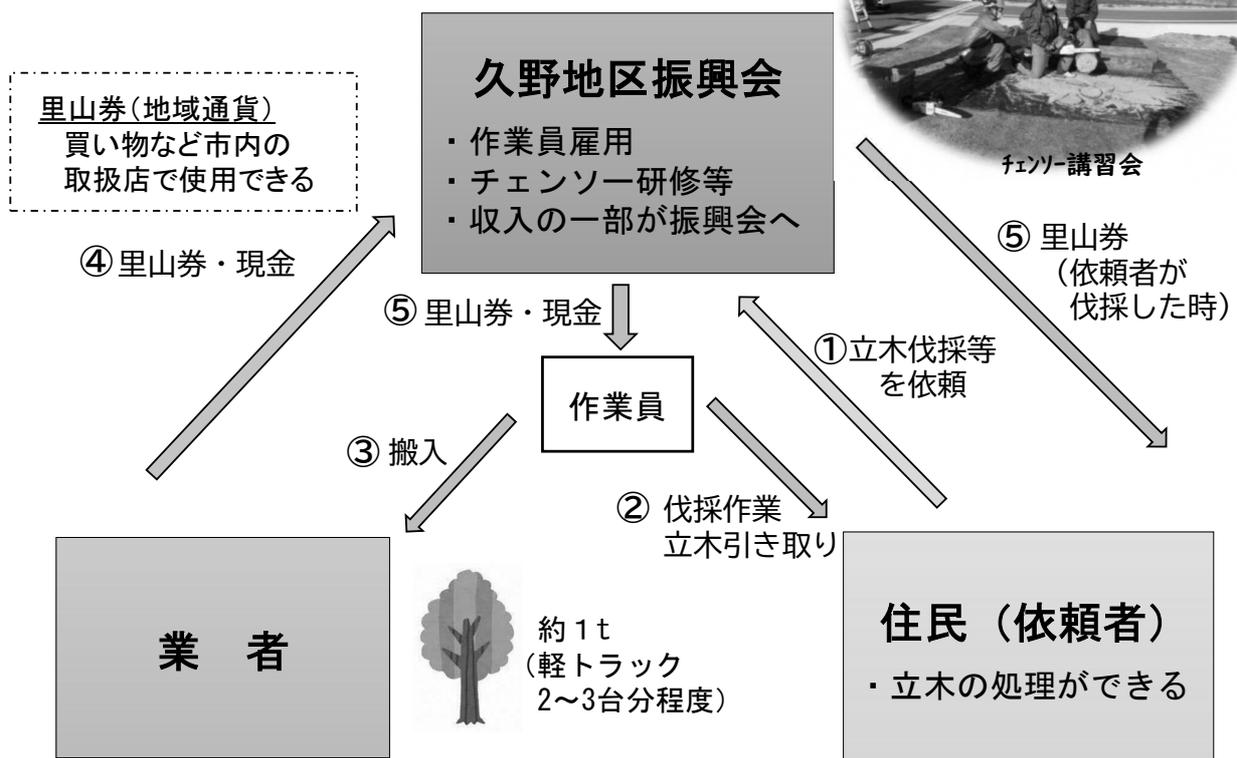
希望者の確保、事故等あった場合の補償 等

◆今後の展望

作業者として活動してもらえる人材（有償ボランティア）の確保

20

立木処理事業イメージ



21

八日市地域づくりの会

たこ焼きの販売による自主財源確保

◆目的

- 1.地域にて「たこ焼き」販売による資金作り。
- 2.地域住民と食を通じて触れ合いの場を作る。
- 3.地域に飲食店舗がない中で食の提供をする。

◆事業内容

「海鮮たこ焼き」及び粉もん中食開発と販売



◆事業実施の方策

- 1.毎月定期的に交流センター前にて特設店舗を設置。
- 2.市内の各イベントに出店し売上の確保。
- 3.出店を通じて八日市のPRを積極的に行う。

22

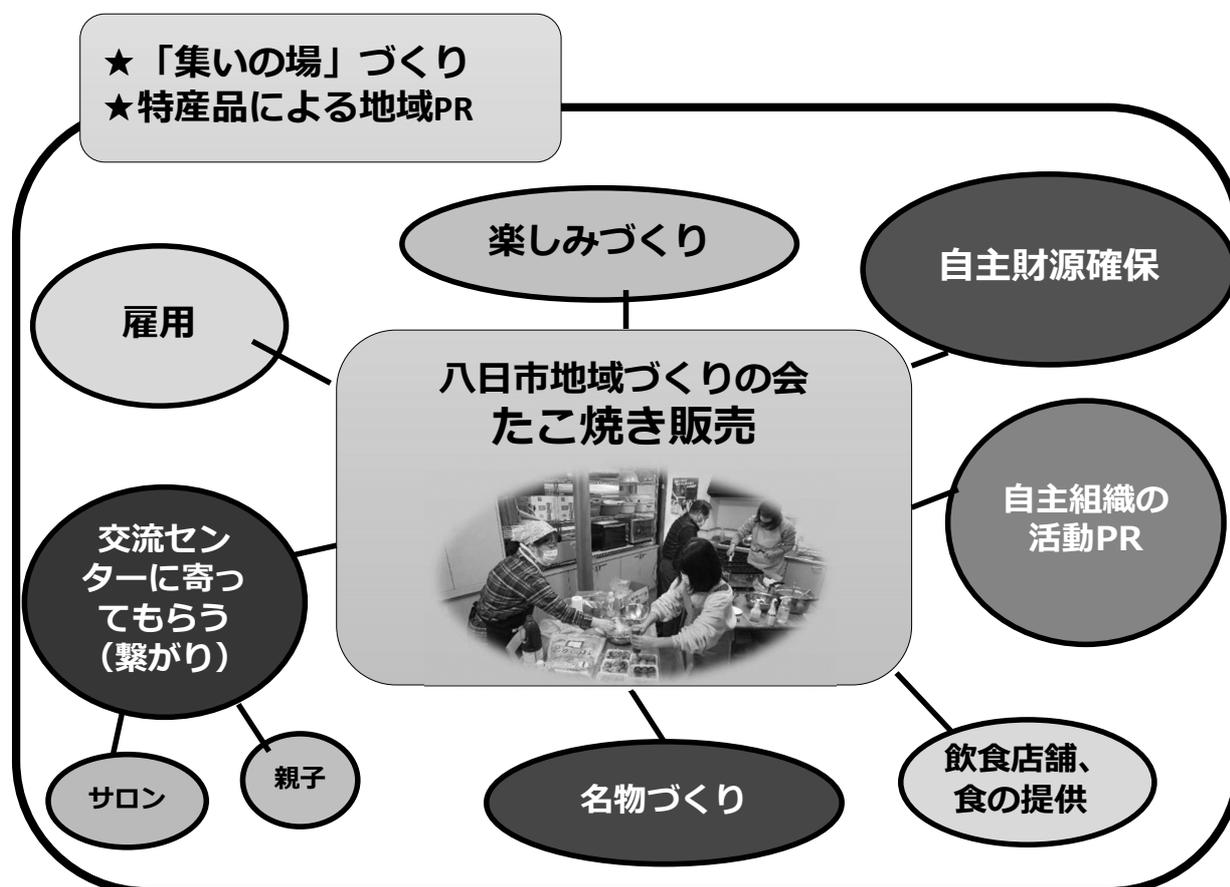
◆事業実施の経費と収益

経費と収益	金額	備考
売上金額	1,500,000円	6個入り450円程度
売上原価	600,000円	
売上総利益	900,000円	荒利率60%
人件費	400,000円	
設備費	200,000円	光熱水費
一般費	150,000円	会場使用料等
営業利益	150,000円	営業利益率10%

※収益について、将来の事業に備え内部留保する。一部、インセンティブとして人件費とする。

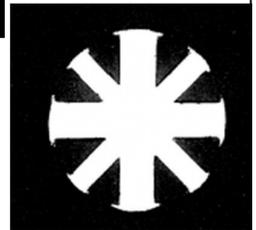
◆課題

1. 自主組織としての自主事業の在り方の理解が得られるか。
2. 事業展開においての人員確保。
3. 継続的に事業が行えるか。
4. 資金管理の在り方。



掛合自治振興会自主財源確保

三本の矢(カケヤ)大作戦



- ① 『広報紙の地区外(出身者) 発送サービス』
- ② 『墓地管理代行サービス』
- ③ 『空き家管理代行サービス』

25

掛合自治振興会

広報紙の地区外（出身者）発送サービス

◆目的

- ・ 出身者とのつながりの確保、関係人口の拡大
(掛合地区計画)
- ・ 自主財源の確保

◆事業内容

市外在住者に対し広報紙を発送することで、地元出身者とのつながりを維持し、様々な形で地域づくりに参加してもらう。自治振興会だよりを有償発送する。

◆事業実施の方策

- ・ 発送に対する希望者を募る。方法は世代ごとに世話人を依頼 (同窓会名簿活用)
- ・ 地元から出身者に対する情報発信媒体として大いに利用する。

◆事業実施の経費と収益(収益の使い方)

- | | |
|---------------------------|---------------|
| ・ 発送料 | 1,080円 (12回分) |
| ・ 広報の取材、作成経費 | 920円 |
| ・ 寄付収入 | 1,000円 |
| (1,000円×200人 = 200,000円) | |

◆課題

- ・ 利用者の拡大(若い年代は名簿無、SNS繋がり多)
- ・ 地区外出身者にも興味(魅力)を持ってもらえる内容。

◆今後の展望

- ・ 自治振興会各種事業に対する理解者(ファン)の発掘とその協力。
- ・ U・Iターンのきっかけづくり。
- ・ 就職・空き家情報発信
- ・ 「ふるさと便」特産品の開発、販路開拓



26

墓地管理代行サービス

◆目的

- ・ 景観の保全（地域課題解決）
- ・ 出身者とのつながりの確保
- ・ 自主財源の確保

◆事業内容

- ・ 市外在住者の墓地の除草、点検
- ・ 墓参り代行（お供花希望受注あり）

◆事業実施の方策

- ・ 「自治振興会だより」へ事業のPRを掲載し、地区外発送する。
- ・ 在住者の縁故等によるPR
- ・ 実施者（有償ボランティア）の募集
- ・ 施工前後の写真を送信（依頼者の満足感）

◆事業実施の経費と収益（収益の使い方）

- ・ 実施者の賃金
作業代 1,000円/時 + 機械使用料 500円/時
- ・ 事務経費 2,000円/件
- ・ 事業手数料 100円/時（実施者から）
- ・ 生花・榊 実費
(2000円×40件・100円×2時間×2回=96,000円)
- ・ サービス内容の評価、検討（満足度アンケート等）研究経費

◆課題

- ・ 利用者の拡大とそれに応じた実施者の確保
- ・ サービス内容の検討（墓磨きオプション等）
- ・ 個人情報の管理（委託者に対して）

◆今後の展望

帰省できない人のための墓磨きサービス又はオンライン墓参りの実現性の検討

空き屋管理代行サービス

◆目的

- ・ 景観の保全（地域課題解決）
- ・ 出身者とのつながりの確保
- ・ 空家活用事業への発展
- ・ 自主財源の確保

◆事業内容

空き家の換気、点検、周囲の清掃等の代行

◆事業実施の方策

- ・ 「自治振興会だより」の地区外発送や、在住者の縁故等によるPR
- ・ 実施者（有償ボランティア）の募集
- ・ 点検結果、実施状況の報告

◆事業実施の経費と収益（収益の使い方）

- ・ 実施者の賃金 800円/時（1000円内）
- ・ 事務手数料 2,000円/件
- ・ 事業手数料 200円/時（1000円内）
(2000円×20件・200円×2時間×12回×20件
=136,000円)

◆課題

- ・ 利用者の拡大
- ・ 実施者（有償ボランティア）の確保
- ・ 個人情報の管理（委託者に対して）
- ・ 信用問題（鍵を預けてもらえるか？）

◆今後の展望

- ・ 空家の活用につなげていく
I Uターン者の住居となれば



◆目的

- ・ 出身者との繋がりと 関係人口の拡大
- ・ 景観の保全
- ・ 空き家活用事業への発展

◆課題

- ・ 利用者の拡大・確保
- ・ 実施者（有償ボランティア）の確保
- ・ サービス内容充実
- ・ 信用問題
- ・ 個人情報の管理

◆今後の展望

- ・ ファン(理解者)の発掘
- ・ U・Iターンのきっかけづくり
- ・ 就職・空き家の情報発信
- ・ on-line墓参り
- ・ 「ふるさと便」開拓

29

研究から得た『自主財源の効果』

- ◆ 地域が元気になるもの。
- ◆ 自由な活動をするための資金づくり。
- ◆ 地域の困りごと解決など、地域住民の満足度や、組織の満足度へ繋がるもの。
- ◆ 地域の担い手を守る財源。（雇用の確保）
- ◆ 組織が儲けるだけではなく、地域内の『ヒト・モノ・カネ』が動き、地域経済が循環するもの。

30

従来の自主組織のお金への考え方

- 事業でお金は生み出さない。ボランティア精神。お金儲けは悪だ！という考え方。
- 補助金や交付金は、“しっかり使い切る”ことが目的となっている。



これからの、地域自主組織の考え方は…

31

これから求められる
地域自主組織

地域をマネジメントしながら、 『経営する組織』

地域にある資源（ヒト・モノ・カネ）を活用しながら組織と地域を経営していかなくてはならない。

33

住民の満足度や幸福度を上げ 『暮らしやすい地域づくり』へ

自主組織の本質＝地域や住民のために！

地域の福祉・生活支援などの困りごとにお金は使うことを明確化し、地域課題に取り組む

34

自主財源確保は、 地域の活性化・課題解決に 『地域経済の循環』を！

「地域内にお金が落ち、経済が生まれるように支援」。地域内で経済が循環することで住民にも落ちるお金も増え、雇用確保・若い世代も働ける自主組織に。

35

今後に向けた提案

- ◆ 自主財源確保の勉強会の開催。
- ◆ 事業計画見直しの際に、自主財源確保も検討していく。
- ◆ 会費や自主財源の活用方法を情報発信。
- ◆ クラウドファンディングや補助事業の活用。
- ◆ 今後の地域経営カレッジでは、自主財源確保のアイデアを持ち寄り、実践的に活かせるような取り組みをしてはどうか。

36

ご清聴ありがとうございました